

令和四年度 本検査 学力検査

国語聞き取り検査放送用CD台本

(チャイム)

これから、国語の学力検査を行います。まず、問題用紙の1ページと2ページがあることを確認しますので、放送の指示に従いなさい。

(2秒空白)

では、問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

(3秒空白)

確認が終わったら、問題用紙を閉じなさい。1ページと2ページがない人は手を挙げなさい。

(5秒空白)

次に、解答用紙を表にし、受験番号、氏名を書きなさい。

(20秒空白)

最初は聞き取り検査です。これは、放送を聞いて問いに答える検査です。問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

(2秒空白)

一 これから、鈴木さんが高橋さんに、テレビ番組で見た映像について伝えている場面と、それに関連した問いを四問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

なお、やりとりの途中、(合図音A)という合図のあと、問いを放送します。また、(合図音B)という合図のあと、場面の続きを放送します。

1ページと2ページにメモをとってもかまいません。では、始めます。

鈴木 高橋さん、わたし、昨夜、テレビ番組ですごい映像を見たわ。夜の川辺を映していたのだけれど、思わず見入ってしまったわ。

高橋へえ、どんな映像だろう。「すごい」と言うからには、きっと迫力ある映像だったんだね。あ、もしかして鮭が産卵のために川をのぼってくる映像かい？

ういえば、二ユースで紹介していたのを見たことがあるよ。

鈴木 ちがうちがう、わたしが見たのはその映像ではないわ。迫力があつたから「すごい」と言ったのではなくて、あまりにきれいな映像だったから「すごい」と言ったのよ。ごめんなさい、わかりにくかったよね。

(合図音A)

問いの(1) 鈴木さんは、高橋さんの発言によって、自分の伝え方に課題があることに気がつきました。鈴木さんの伝え方の課題として最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(15秒空白)

(合図音B)

鈴木 蛍が川辺を飛んでいる光景だったのよ。真つ暗闇の中に光る蛍がたくさん飛んでいて……すごい。そのすごさを、どのような言葉を使えば伝えられるかしら。(2秒空白)

そうだ、この間、高橋さんと部活動の後、一緒に帰ったよね。その時に見た、空いっぱい星を覚えているかな？ わたしが見た映像は、あの満天の星みたいに蛍が飛び交う光景だったの。

高橋 ああ、あの満天の星は確かにすごかった。きれいだったね。鈴木さんが見た映像を想像できたよ。はじめに「すごい」と聞いた時は、迫力のある映像に驚いたことを指しているのだと思っただけだけど、驚きは驚きでも、美しさに感動する意味合いが入っていたのだね。

(合図音A)

問いの(2) 鈴木さんと高橋さんのやりとりから、高橋さんが鈴木さんの伝えたいことを理解できたのはなぜだと考えられますか。最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(15秒空白)

(合図音B)

高橋 それにしても、羨ましいな。満天の星みたいに飛び交う蛍の光景なんて見たことないよ。

鈴木 わたしもよ。初めて見たわ。だから、かえって複雑な気持ちにもなったわ。

高橋 あれ、きれいな光景だったから「驚いた」のよね。「複雑な気持ち」とはどういうことかな？

鈴木 あ、それはね、その光景が、今ではテレビでしか見ることができないと気づいたからなの。わたしは驚いたけれど、一緒にその映像を見ていた祖母はなつかしがつっていたのよ。祖母はここで生まれ育つただけだけど、小学生の頃は、よく見かけた光景なのですって。夏休みには川辺で蛍をつかまえたらしいわ。

(合図音A)

問いの(3) 鈴木さんは、高橋さんの工夫した受け答えのおかげで、「複雑な気持ち」の説明を自然に付け加えることができました。高橋さんは、どのような工夫をして「複雑な気持ち」の説明を鈴木さんから引き出していますか。最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(18秒空白)

(合図音B)

高橋 そうか、確かに満天の星のように飛び交う蛍の光景に驚くのは、それがぼくたちにとって身近な光景ではないからだね。鈴木さんはそこまで思いをめぐらしていたんだなあ。ぼくだったら単に感動して終わっていただろうな。

(合図音A)

問いの(4) 高橋さんが鈴木さんに感心したのは、なぜですか。その理由として最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(5秒空白)

放送は以上です。3ページ以降も解答しなさい。

令和四年度

本検査

学力検査

国語

問題用紙

(注意事項)

- 一 放送で指示があるまでは、開いてはいけません。
- 二 答えは、全て解答用紙に書きなさい。
- 三 検査問題は、大問七題で、1ページから14ページまで印刷されています。
検査開始後に、印刷のはっきりしないところや、ページが抜けているところがあれば、手を挙げなさい。
- 四 解答用紙だけ提出し、問題用紙は持ち帰りなさい。

解答上の注意

解答する際に字数制限がある場合には、句読点や「」などの符号も字数に数えること。

聞き取り検査受検上の注意

- (1) 最初に聞き取り検査を行います。
- (2) 聞き取り検査は放送で行います。問いも放送します。放送は全て一回だけです。
- (3) 放送終了までは、3ページ以降を開いてはいけません。
- (4) 放送中に、1ページと2ページにメモをとってもかまいません。

※注意 各ページの全ての問題について、解答する際に
字数制限がある場合には、句読点や「」などの
符号も字数に数えること。

— これから、鈴木さんが高橋さんに、テレビ番組で見た映像について伝
えている場面と、それに関連した問いを四問放送します。よく聞いて、
それぞれの問いに答えなさい。

(放送が流れます。)

(1) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 「すごい」という感情より、客観的に映像を伝える方がよいこと。
- イ 「すごい」という言葉だけでは、説明が不足しているということ。
- ウ 「すごい」は異常な状況に対してだけ使う言葉だということ。
- エ 「すごい」は幼稚な表現なので相手を不快にするということ。

(2) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 高橋さんとの思い出を例にあげること親近感を抱かせたから。
- イ 高橋さんの好きな星空を例にあげること興味を持たせたから。
- ウ 高橋さんが空想にひたることのできる幻想的な例を考えたらから。
- エ 高橋さんが思い描きやすいよう、共有体験を例に説明したから。

(3) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 鈴木さんの「驚く」が主観的な発言であることを確認することで、「複雑」という表現と矛盾することに気づかせた。
- イ 鈴木さんが「驚いた」理由を確認し、そのうえで「複雑な気持ち」が生まれてきた経緯を伝えるべきだと気づかせた。
- ウ 必死に伝えようとする鈴木さんをせかさないうことで、鈴木さんに適切な表現を粘り強く探すべきだと気づかせた。

エ 鈴木さんが用いた「複雑」という表現によって、「すごい」という意見が成り立たなくなってしまうことに気づかせた。

(4) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 鈴木さんが、自分の抱いた感情を個人的な体験で終わらせることなく、生活環境の変化にまで視野を広げていたから。
- イ 鈴木さんが、自分の抱いた感情を大切にして、それを伝えるために年配の人にも意見をきいて説得力を持たせていたから。
- ウ 鈴木さんが、自分の抱いた感情にまどわされることなく、歴史的な事柄を重視して理性的な判断を行っていたから。
- エ 鈴木さんが、自分の抱いた感情を高橋さんに伝えるだけでなく、言葉をつくして多くの例をあげ、説明してくれたから。

聞き取り検査終了後、3ページ以降も解答しなさい。

二 次の(1)～(4)の——の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (1) 水分を補給するよう勧める。
- (2) 授業で漢詩の朗詠を聞く。
- (3) 世の中の動きに鋭敏な社会学者。
- (4) 人間性を陶冶する。

三 次の(1)～(5)の——のカタカナの部分を漢字に直して、楷書で書きなさい。

- (1) 春をツげる小川のせせらぎ。
- (2) 来場者数がノべ五万人に達した。
- (3) 三月はカンダンの差がとても激しい。
- (4) ハカクの好条件で契約を交わす。
- (5) キュウタイ依然とした生活を見直す。

四 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

五輪の招致合戦のさなか、「世界語」になった日本の言葉があります。

「おもてなし」です。おもてなしは英語でいえば「Hospitality」(ホスピタリティ)ということになるわけですが、その中身には顕著な違いがあるという気がします。

A おもてなしに用いられるアイテムのひとつが花でしょう。その飾り方が彼我ではまったく違います。花を飾る際、欧米で重要視するのはポリウム感と色彩です。色とりどりの花をポリウムたつぷりに飾る。それが欧米流です。豪華な、いわゆるフラワーアレンジメントが、訪問者を迎える極上のおもてなしになるわけです。

日本流は趣をまるで異にしています。季節の花が控えめに活かしている。数も少なく、一輪だけということも少なくありません。秋にはすずきが一本活けてある、といったことも珍しくないのです。禅の美のひとつである「簡素」は、日本のおもてなしでも大切な要素です。

欧米人はすすき一本に「なあんだ、一本だけか。物足りない」と感じるでしょう。しかし、日本人はその物足りないすすき一本から、秋の深まりや秋の静けさといった「花を超える」ものを感じとるのです。

(注4) 千利休のわび茶はおもてなしが凝縮された世界である、といっているかも知れません。お茶を点てる作法、すなわちお点前の動きは、まったく無駄がありませんし、簡素で流れるような美しさを感じさせます。おもてなしのふるまい(所作)のきわみでしょう。

(注6) 利休は茶の湯についてこういつています。

B 「茶の湯とはただ湯をわかし茶をたてて飲むばかりなることと知るべし」

「湯をわかす」「茶をたてる」「飲む」。茶の湯で必要不可欠なのはこれだけです。そうであつたら、余計なことはいっさいせず、やるべきことだけを心を込めてやりなさい、というのがこの言葉の意味するところでしょう。

これは禅の考え方そのものです。禅の考え方の方の根底にあるのは、削ぎ落とす、捨てる、拭い去る……ということなのです。余計なものができるかぎり、削ぎ落とし、捨て、拭い去っていく。そうして残ったものがほんとうに大事なものである、とするのが禅です。

これはおもてなしにもつながります。もうひとつ利休の言葉を紹介しましょう。

C 「叶うはよし、叶いたがるは悪し」

努力した結果、ものごとが自然に叶うのはよいが、結果ばかりを求めるとはいかん、ということなのです。これをおもてなしということに引き寄せていえば、相手におもてなしをしたという思いが自然に伝わるのはかまわないが、思いを伝えることが優先され、そのためにあれこれと手練手管を弄するのはだめである、ということでしょう。

端的に言えば、おもてなしでは余計なことはするな、過剰になつてはいけない、ということだと思えます。たとえば、相手の好きな花を玄関先にふんだんに飾っておく、というのは明らかにやりすぎ。これ見よがしの印象を与えます(国柄が違う欧米では印象は違ふと思えますが……)。

違ういい方をすれば、「あなたのためにここまでしてあげているのですよ」という思いが、相手に透けて見えてしまうのです。それでは、相手は心地よいどころか、負担に感じてしまうと思いませんか。

やはり、一輪を「さりげなく」どこかに飾っておくのがいい。さりげなさはおもてなしの重要なキーワードだと思います。相手がふと目をやると、そこに好きな花が一輪。それでこそ、相手は「あつ、好きな花を憶えていてくださったんだ。うれしいなあ」としみじみとした、しかし、深い感慨を覚えるのではないのでしょうか。それが、おもてなしの心が自然に伝わるということでしょう。

思いを相手に押しつけないためには次の禅語を心に置いておくことです。

「同事」

(注8)

(注9)

これは道元禅師の著した『正法眼蔵』の「四摂法」という巻に出てくるものですが、相手と同じ立場に立つ、相手と思いを同じくする、ということ。何が相手にとっていちばん心地よいのだろう。徹底的に掘り下げて考える必要があるのはそこです。

ああもしたい、こうもしてあげたい、という思いはさまざまにあるでしょう。しかし、「同事の視点で思いを見直してみるのです。すると、「これは独りよがりなだけで、相手は心地よくないかもしれない」というものが見つかるとは必ずです。」それは削ぎ落とす、捨てる、のです。そうして残った思いをかたちにする。思いが自然に伝わるおもてなしとはそういうものだと思います。それが、通り一遍のものではない、

画一的でない、その人にほんとうにふさわしいおもてなしになることはいうまでもないでしょう。

(拮野俊明『人生は凸凹だからおもしろい』による。)

(注1) 彼我||あちらとこちら。

(注2) フラワーアレンジメント||草木の枝・葉・花を切り取り、洋風に形を整えて鑑賞用にする。

(注3) 禅||仏教の一派である禅宗を指す。「禅語」は禅宗独特の言葉指す。

(注4) 千利休||安土桃山時代の茶人(茶道に通じた人)。

(注5・6) お点前、茶の湯||「お点前」は「茶の湯」の作法。「茶の湯」は客を招き、抹茶をたてて楽しむこと。

(注7) 手練手管を弄する||ここでは「目的を達成するためにあれこれ策をねる」の意。

(注8・9) 道元禅師、『正法眼蔵』||道元禅師は鎌倉時代の禅宗の僧。『正法眼蔵』は道元の教えを記録した書。

(1) 文章中の みる と同じ意味で使われているものとして最も適当なもの、次のア〜エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア みるからに高級な品

イ 白い目でみる

ウ 味わつてみる

エ 反論をこころみる

- (2) 文章中に おもてなしに用いられるアイテムのひとつが花 とあるが、この話題が果たす役割の説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア 日本流のおもてなしと欧米流のおもてなしの比較を通じて、日本流の優れた点を明確にし、正当な方法であることを伝えている。
- イ 日本流のおもてなしと欧米流のおもてなしの相違点を示すことで、おもてなしが「世界語」になるために必要なことを伝えている。
- ウ 日本流のおもてなしと欧米流のおもてなしの相違点を示すことで、双方の違いを超えた異文化理解の大切さを伝えている。
- エ 日本流のおもてなしと欧米流のおもてなしの比較を通じて、日本流の「簡素」なおもてなしの効果を具体的に伝えている。

- (3) 文章中に引用された利休の言葉と、日本流のおもてなしのつながりについて整理した次の表を、完成させなさい。ただし、I に入る言葉は、文章中から十字で抜き出して書き、II に入る言葉は、文章中の言葉を使って、五字以上、十字以内で書くこと。

〔文章中に引用された利休の言葉〕

- B 茶の湯とはただ湯をわかし茶をたてて飲むばかりなることと知るべし
- C かな 叶うはよし、叶いたがるは悪し

〔利休の言葉と日本流のおもてなし〕

		おもてなしの考え方	理由
C	おもてなしは「さりげなく」行うことが望ましい。	余計なことはせず、やるべきことだけを行う。	相手にとって I とは何か、を自覚して行うため。
B			相手が II で、行う側の思いを受け入れられるようにするため。

(4) 文章中の「同事の視点……」について、「利休の考え方をふまえない例」として筆者が著した次の文章を参考にして、あとの問いに答えなさい。

〔利休の考え方をふまえない例〕

話術が巧みで、どんなことに関しても淀みなくしゃべるとい
人がいます。その点だけを見ると、営業部門に向いているよう
気がします。しかし、現実にはそのタイプの営業成績がいつこ
に上がらないということがあります。

もち前の雄弁が、扱っている商品のメリットをいい募ること
けに使われている、といったケースはそれにあたるかもしれませ
ん。相対する顧客はどんな気持ちになるでしょう。

「この営業マンはいいことだけしかいわないし、ちつともこ
らの話を聞いてくれない。調子がよすぎて、どうも信頼できない」

(ますのしゆんみょう 枅野俊明『人生は凸凹だからおもしろい』による。)

(注) いい募る＝調子にのって、ますます言い張ること。

問い 右の文章中の「扱っている商品のメリットをいい募る」営業マンを例に、「同事の視点」を用いて「見直」すべき点をあとのようにまとめます。

I Ⅰ Ⅲ に入る言葉を書きなさい。ただし、次の①、②にしたがって書くこと。

① 「これは独りよがりなだけで、相手は心地よくないかもしれ
ない」(5 ページ)の内容をふまえて書くこと。

② I は十字以上、十五字以内で書き、 II はそれぞれ五字以上、十字以内で書くこと。

〔同事の視点』を用いて営業マンが「見直」すべき点〕

・顧客は I に違いなと思ひ込んでいという点。
・顧客の II を的確に理解せず、 III という点。

(5) D その人に とあるが、「おもてなし」の相手が「その人」と表現されて
いるのはなぜだと考えられるか。その説明として最も適当なものを、
次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 押しつけと感ずるかどうかは、相手の状況に左右されるため、相
手を固有名詞で呼ばないように配慮すべきだから。

イ 自分の価値観で判断せず、相手に配慮したおもてなしの方法を、
その都度考えて対応することが最善の気遣いだから。

ウ 心地よさも不快さも個人差があるため、おもてなしの相手が確実
に目の前にいるときに行うことが思いやりだから。

エ 相手について知れば知るほど、身近な存在として感じられるよう
になり、こだわりがなくなっていくものだから。

五 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

小学一年生の悠人がいつもドッジボールで当てられることを知った、三歳違いの兄の信也と幼なじみの少女水樹は、一緒にドッジボールの練習をしている。しかし、いつまでもボールを受けられない悠人に信也がきつくあたり、悠人は泣いてしまう。そこへもう一人の兄で小学六年生の正浩が合流した。

「なあ信也。これから悠人には、相手の顔を見ながら逃げることだけ、教えてやれよ。ボールは受けられなくてもいいから」

「そんなんじや、またやられてしまうやろ」

「そんなことない。頭抱えて目え瞑つて逃げるんと、相手の顔を見ながら逃げるんとでは全然違うで」

悠人は思い込みが強い。一度「怖い」と思ってしまうと、どうしようもなく恐くなる。頭で考える前に、体と心がすべてを拒絶してしまう。そんな悠人にただ「立ち向かえ」と教えても、絶対に無理なのだと言正浩は信也を諭す。

「今はボールを受けることはせんでいいよ」

正浩が断言すると、信也はやつてられない、という顔をしてボールを足元に置いた。そして正浩の胸の辺りに向かって強く蹴り出すと、

「そしたらお兄ちゃんが教えてやつて」

と言に残し、そっぽを向いて家とは反対の方向に歩いて行ってしまった。

やれやれ、という表情で正浩は足元に転がったボールを拾うと、

「悠人、あとちよつとだけ続きやろつか」

と優しく声をかける。「水樹ちゃんも付き合ってくれろ？ コートの中に、悠人と一緒に入ってやつて」

水樹が悠人の手を引いてコートの中に立つと、

「悠人、お兄ちゃんの顔見ろよ。投げるぞ」

と正浩がボールを投げてくる。緩やかな放物線を描くボールは、虫捕り網でも捕らえられそうなくらいゆっくりと投げられ、水樹と悠人は余裕の横走りですの球をよけた。

正浩は、ボールを投げると反対側に走り、自分でそのボールを拾い、また投げては反対側に走る。肩で息をしながら何度も何度も、その動作を繰り返した。

そのうちに、正浩が「投げるぞ」と声をかけなくても、悠人の体は自らボールをよけるようになり、視線もボールが飛んでくる方向に向けられるようになった。

「すごいな悠ちゃん、ちゃんと目、開けてられるようになったやん」

水樹は、笑みさえ浮かべながら楽しそうにコートの中を走る悠人に向かって拍手した。いつもの萎縮した感じも、怯えた感じもなく、悠人は次に自分に向かってくるだろう球筋を読みながら、体をひるがえるようになった。

どれくらい、練習を続けたらだろう。ついに正浩がばててしまった。

「もう……あかん。おれが倒れてしまうわ」

そう言うと、階段の一番下に座りこんで乱れた呼吸を整える。水樹は、呼吸のリズムに合わせて上下する正浩の華奢な肩や薄い胸を見ていた。

「やっぱり正浩ちゃんはずいいわ。悠ちゃん、ちゃんとボールよけられるようになったもんな」

水樹がはしゃぐと、

「ほんまや。こんな短い練習時間やのになあ」

と正浩は立ち上がり、悠人の頭の上に手を置いて撫^なでる。

「正浩ちゃんは、なんでもわかっているんやなあ。悠ちゃんのこと、なんでも」

水樹は思わず正浩の腕をつかんだ。^(注2)兄と同じ年のはずなのに、正浩といるとなんだか学校の先生と一緒にいるような錯覚に陥る。

「ボールを投げてくる奴^{やつ}の顔を見ながら逃げる。これが悠人の闘い方や。人によって、闘い方はそれぞれ違うんや。だから、自分の闘い方を探して実行したらええねん」

「自分の闘い方？」

「悠人は悠人なりの。信也は信也の。水樹ちゃんは水樹ちゃん、おれはおれ。自分に合ったやり方を見つけたら、とことんそれをやったらええんや。無理することはないって」

「かっこ悪くない？ 逃げてばかりやったらかっこ悪いって、信ちゃんが言うんや」

悠人が甘えるように正浩の方をまっすぐ見上げた。

「かっこわるくないよ。悠人、おまえ今お兄ちゃんを睨^{にら}みつけながら、えらい素早く走ってた。たくさんのこと考^(注4)えんと、走って走って走って逃げたらええんや」

正浩が力を込めたぶんだけ、悠人の目に力が漲^{みなぎ}っていく。

「ドおは、どりよくのド。レえは、れんしゅうのレえ」

高らかに悠人が歌いだしたので、水樹は思わず吹き出し、

「なにその歌」

と笑う。ドレミの歌のメロディにおかしな歌詞がついている。

「信ちゃんが作ってくれたんや。勇気がなくなったら歌えって。続きあるんやで、聞いててや」

ドはどりよくのド、レはれんしゅうのレ。ミはみずきのミ、ファはファイトのファ……。

「ミは、水樹のミなん？」

「うん。信ちゃんがそうしようって。水樹ちゃんの顔を思い出すと頑張れるから」

悠人は言うのと、また最初から歌い出す。調子の外れた歌声に水樹と正浩は目を合わせて笑い、歌い終わるまで静かに聞いた。

(藤岡陽子『手のひらの音符』による。)

(注1) せんでいいよ||「しなくてよい」の意。

(注2) 兄||水樹にも、正浩と同じ学年の兄がいる。

(注3) かっこわるくないよ||「かっこ悪くない」の意。

(注4) 考えんと||「考えないで」の意。

(1) 文章中に やつてられない、という顔 とあるが、これは信也のどのような気持ちを表しているか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 悠人との練習に関する自分の考えを聞きもせず、正浩自身の意見が通されたことへの怒りがわき出ている。

イ 年長者の立場から、信也の練習方法よりも自らの意見を悠人に言い聞かせる正浩への不信感が生まれている。

ウ 悠人への教え方としては正浩の意見の方が正論であることがわかってはいるが、素直に認められずにいる。

エ 悠人に対するそれまでの自分の教え方を正浩から否定されたように思い、不満な気持ちを押しさえきれずにいる。

(2) 文章中に ちやんと目、開けてられるようになったやん とあるが、正浩の期待を上回る悠人の変化が表現されている一文を抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

(3) 文章中に 水樹は思わず正浩の腕をつかんだ とあるが、このときの水樹の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 正浩の、人には個人差があることを理解し、悠人に合わせた練習になるように工夫する姿に魅了されている。

イ 正浩の、悠人の性格を冷静に分析し、ひたすらほめることでやる気を維持させている姿に圧倒されている。

ウ 正浩の、苦手なことを克服しようと努力する悠人に対して、自身も全力で教えるひたむきな姿に感動している。

エ 正浩の、厳しくも温かい言葉で悠人を導き、正しいやり方を教えるようにする真面目な姿勢に心を打たれている。

(4) 二人の兄についてまとめた、次の文章を完成させなさい。ただし、I は文章中の言葉をを用いて五字以内で書き、II は三字で抜き出して書くこと。また、III は五字以上、十字以内で書くこと。

ドッジボールでの悠人の闘い方について、信也は、ボールを受けて相手に I ことを主張した一方で、正浩は、II 方法を教えたところ、ボールをよけられるようになった。二人の厳しさと優しさは、共に弟に対して III ことのあらわれである。

(5) 次は、この文章を読んだあとに、山田さん、川野さん、林さんが、表現の効果について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

山田さん 悠人は正浩を深く信頼していると思います。兄がぼてるほど、何度も繰り返し練習したのに、悠人は一度も弱音を吐いていません。

川野さん 悠人の正浩への信頼感が示されている、具体的な表現がありますか。

山田さん 例えば、「**I**」という直喩は、否定的なことを言ったとしても、正浩が自分のことを受け入れてくれるとわかっているからこそその表現だと思えます。

林さん そうですね。「**II**」という一文からも、正浩と悠人の、深いつながりが感じられます。私もつらい時や悲しい時に励まして支えてくれる人がそばにいてくれると、とても心強く感じます。

川野さん 私は、「**ド**」は、どりよくだ。レえは、れんしゅうの「レえ」と悠人の歌う場面が、登場人物同士の関係性を表現していて、印象的でした。特に、文章の最後の四行からは、「**III**」ということが感じられます。また、それまでの緊張した雰囲気、調子外れの歌で少し和らいだように思います。

(a) **I** に入る言葉を、8ページ・9ページの文章中から六字で抜き出して書きなさい。

(b) **II** に入る一文を、8ページ・9ページの文章中から抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

(c) **III** に入る言葉を、「……とは、……」という形を使って、二十字以上、二十五字以内で書きなさい。

六 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

「昔、ものくさ太郎というとても面倒くさがり屋がいた。ある日、持って
いた餅が不意に手からこぼれ落ち、近くの大通りまで転がってしまった。」

その時、ものくさ太郎、見渡して思ふやう、取りに行き帰らんもの

くさし、いつの頃^{ころ}にても、人の通らぬことはあらじと、竹の竿^{さそ}をささげ
(ないだろう)

て、犬鳥^{いぬからず}の寄るを追ひのけて、三日まで待つに、人見えす。三日と申

すに、ただの人にはあらず、その所の地頭^{ぢしやう}、あたらしの左衛門尉^{さゑもんのかみ}のぶ

よりといふ人、小鷹狩^{こたかがり}、目白^{まじろ}の鷹^{たか}を据ゑ^{すゑ}させて、その勢^{せい}五六十騎^{ごじゅうしう}にて通

り給ふ。

ものくさ太郎、これを見て、鎌首^{かまくび}もち上げて、「なう申し候^{まうす}はん、そ
(頭^{かぶ}だけ持ち上げて)

れに餅^{もち}の候^{まうす}ふ、取りてたび候^{まうす}へ」と申しけれども、耳^{みみ}にも聞き入れず
(取^とってくださ)

うち通りけり。ものくさ太郎、これを見て、世間^{よこ}にあれほどのものくさき

人の、いかにして所知^{しよちしよりやう}所領^{しよちしよりやう}をしるらん、あの餅^{もち}を、馬^{うま}よりちとおり、
(領地^{りやうち}を治めるのたう)

え取りて伝^{つた}へん程^{ほど}のことは、いとちすきこと、世^よの中^{なか}にもものくさき者^{もの}、

われひとりと思^{おも}へば、多くありけるよと、「あらうたての殿^{との}や」とて、
(ああ情^{なさけ}けない)

なめならず。

(二通りではない腹^{はら}の立て方^{かた}であつた)

(『ものくさ太郎』による。)

(注1) 地頭^{ぢしやう} 治安維持のために各地に置かれた幕府の御家人。

(注2) 小鷹狩^{こたかがり} 鷹^{たか}を飼^かい慣^ならして小鳥^{こどり}を捕^とる狩^{かり}り。

(注3) 目白^{まじろ}の鷹^{たか} 眉^{まゆ}の上^{うへ}が白^{しろ}い鷹^{たか}。

(1) 文章中の 据^{すゑ}ゑさせて の漢字以外の部分を現代仮名づかいに改
め、ひらがなで書きなさい。

(2) 文章中に 見渡して思ふやう とあるが、ものくさ太郎が思ったこととして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 自分に気づく人は少ないから、餅を拾ってもらおう工夫をしよう。
- イ 犬や鳥に悟られずに、近くの人に餅のありかを教えてあげよう。
- ウ 人が通る道なのだから、通りすがりの人に餅を拾ってもらおう。
- エ 多分誰も通らない道なのだから、犬や鳥に餅を与えてしまおう。

(3) 文章中の 耳にも聞き入れずうち通りけり の主語にあたるものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 地頭
- イ ものくさ太郎
- ウ 犬鳥
- エ 目白の鷹

(4) 文章中に え取りて伝へん程のことは、いとやすきこと とあるが、この言葉の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア お取り次ぎがあることは、たいそう安心なことであるのに
- イ 取りに行くくらいのは、結構安価で済ませられるのに
- ウ 取って渡すくらいのは、大変容易にできることなのに
- エ お取り計らいがあることは、かえってうれしいことなのに

(5) 次の文章は、ある中学生が授業でこの文章を読んだ感想の一部です。これを読み、あとの(a)、(b)の問いに答えなさい。

私は、先生が授業で紹介した「賢を見ては斉しからんことを思ひ、不賢を見ては内に自ら省みる也。」という『論語』の一文を思い出しました。その内容と比べて、ものくさ太郎の「あらうたての殿や」という最後の発言からは、自省ではなく 姿がわかり、より一層面白く感じました。

(a) 右の文章中の 不賢を見ては内に自ら省みる也。 について、こう読めるように、次の「見、不賢、而、内、自省也。」に返り点をつけなさい。

見^{テハ} 不 賢^ヲ 而 内^ニ 自 省^{ミル} 也。

(b) に入る言葉を、二十字以上、二十五字以内で書きなさい。ただし、次の言葉の中から最も適当なものを一つ選び、言葉のつながりに応じて活用させながら書くこと。

- ・ごまをする
- ・柵に上げる
- ・骨が折れる

七

次は、中学生の森さんと沢木さんが「大人」とはどのような人のことを指すのか、考えている場面です。これを読み、あとの〈条件〉にしたがい、〈注意事項〉を守って、あなたの考えを書きなさい。

〔話題〕 「大人」とはどのような人のことを指すのか

私は同級生に「大人」だと思う人がいるの。
話し合いのとき、人のどんな意見にも耳を傾け、
いつも客観的な意見を言ってくれるのよ。

森さん



この間、十八歳になった姉のもとに、選挙の
ときに投票所で見せる「投票所入場整理券」が届
いたんだ。姉はもう「大人」なんだと思ったよ。

沢木さん



〈条件〉

- ① 二段落構成とし、十行以内で書くこと。
- ② 前段では、二人の考え方を整理すること。
- ③ 後段では、二人の考え方をふまえてあなたの意見を理由とともに具体的に書くこと。

〈注意事項〉

- ① 氏名や題名は書かないこと。
- ② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。
ただし、{| や || などの記号を用いた訂正はしないこと。

